

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 20 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25245005

研究課題名(和文) 二院制に関する動態論と規範論の交差的研究

研究課題名(英文) A study of the intersection of "a dynamic theory" and "a normative theory" about the bicameral system

研究代表者

岡田 信弘 (OKADA, Nobuhiro)

北海道大学・大学院法学研究科・特任教授

研究者番号：60125292

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 21,100,000円

研究成果の概要(和文)：本共同研究は、日本の議会政治を取り巻く「混迷状態」を解消・克服するための方策を、二院制に関する「動態論」と「規範論」の交差的研究を通じて探究しようとするものである。

イタリアやフランスでは「規範論」がどちらかといえば「動態論」に優位し、そのことが制度改革をめぐる活発な議論に結びついているように思われる。これに対して、イギリス、ドイツ、オーストラリアでは「動態論」のほうに優位し、そのため制度改革よりも二院制の運用に関わるアクター間の合意形成による問題解決が試みられているとの印象を持った。日本における議論は前者に位置づけられようが、制度改革がなかなか進まないというのが現状である。

研究成果の概要(英文)：The Japanese parliamentary politics is in a confusion state. Our study is going to research the measures that dissolve and overcome this "confusion state" through a investigation of the intersection of "a dynamic theory" and "a normative theory" about the bicameral system.

A normative theory does predominance in a dynamic theory in Italy and France, and it seems to be tied to an active argument over the system reform in two countries. In contrast, we had an impression that "a dynamic theory" did predominance in U.K., Germany, and Australia. The argument in Japan is placed to the former, but the institutional reforms do not readily advance.

研究分野：憲法学

キーワード：公法学 政治学 議会制 二院制 立法過程

## 1. 研究開始当初の背景

日本の議会政治は、依然として、「混迷状態」にある。いわゆる「ねじれ国会」あるいは「逆転国会」は解消したが、その後、参議院の「衆議院のカーボンコピー化」ともいふべき現象が再現しており、議会政治の「機能不全」が常態化している。その一因を、日本国憲法における二院制の運用の「病理」に求めても外れとはいえないであろう。本共同研究は、このような問題意識や背景のもとに開始された。

## 2. 研究の目的

本共同研究の目的は、「日本国憲法における二院制の適正な位置づけと機能」を探ることであった。すなわち、本共同研究は、議会政治を取り巻く「混迷状態」を解消・克服するための方策を、二院制に関する「動態論」と「規範論」の交差的研究を通じて探究しようとするものである。

具体的には、「政権交代の繰り返し」等に基づく二院制に関わるアクター（主に与野党）間の合意形成による「混迷状態」からの脱出アプローチと憲法の定める統治構造に関わる規範群に基づいた制度改革指向的なアプローチとを交差させた研究を試みた。また、その成果を、国内の研究者・実務家だけでなく、国際シンポジウムの開催等を通じて、外国の研究者へ発信することも研究目的とされた。

## 3. 研究の方法

本共同研究では、まず研究分担者について、「国内担当」・「外国担当」の軸と「動態論」・「規範論」の軸を交差させながら、「歴史分析班」、「現状分析班」、「外国分析班」、「理論分析班」の4班に分けて研究を遂行した。それらの成果を、内部的な研究会で突き合わせるとともに、複数の国際シンポジウムを通じて国内外の研究者に発信した。

なお、本共同研究の方法的特色は、何よりも、異なる分野に属する人々の相互交流と共同作業によって遂行されたことにある。具体的には、国を異にする人々間での学术交流、そして異なる学問領域に属する人々、例えば、憲法学者、政治学者、立法実務家の参加と協力を得て行われた。

## 4. 研究成果

3年間に開催された研究会や国際シンポジウムにおける議論を通じて、主要国における二院制の「規範論」と「動態論」の関わり方がより明確になったと評価している。イタリアやフランスでは「規範論」がどちらかといえば「動態論」に優位し、そのことが制度改革をめぐる活発な議論に結びついている

ように思われる。これに対して、イギリス、ドイツ、オーストラリアでは「動態論」のほうが優位し、そのため制度改革よりも二院制の運用に関わるアクター間の合意形成による問題解決が試みられているとの印象を持った。

日本における議論のありようは前者に位置づけられようが、制度改革がなかなか進まないというのが現状である。そこで問題となるのが、政党制度と選挙制度のありかたである。「規範論」と「動態論」を交差させるには、この両者の結び付き方の研究が不可欠である。

なお、研究成果の国際的な発信活動の一環として、研究代表者は、2014年6月にノルウェーのオスロ大学で開催された「国際憲法学会第9回世界大会」の部会（「直接民主政」）にペーパーを提出しコメントを行った（論究ジュリスト11号190-191頁参照）。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計31件)

1. 徳永貴志・砂原庸介「ロー・アングル 憲法判例再読：他分野との対話（第4回）「一票の較差」判決：「投票価値の平等」を阻むものは何か [最高裁大法廷昭和51.4.14判決,最高裁大法廷平成23.3.23判決]」、法学セミナー734号、P.60-70、2016、査読無
2. 加藤一彦「参議院の意識化された原像形成」、現代法学30号、P.199-239、2016、査読無、<http://hdl.handle.net/11150/10777>
3. 武蔵勝宏「国会審議の効率性と代表性—国会審議をどのように変えるべきか」、北大法学論集66巻5号、P.301-326、2016、査読無、<http://hdl.handle.net/2115/60598>
4. 高見勝利「国会を追い詰めた最高裁の「違憲状態」判決」、世界865号、P.20-24、2015、査読無
5. 西村裕一「第1期改憲論議を振り返る」、法学教室416号、P.13-20、2015、査読無
6. 西村裕一「情念の行方—象徴・代表・天皇制」、論究ジュリスト13号、P.100-108、2015、査読無
7. 徳永貴志「国会議員および欧州議会議員の兼職規制強化—国会議員と地方執行職との兼職を禁止する2014年2月14日の組織法律第125号および欧州議会議員と地方執行職との兼職を禁止する2014年2月14日の法律第126号」、日仏法学28号、P.135-138、2015、査読無
8. 岡田信弘「参議院議員定数不均衡訴訟」、法学教室編集室【編】『判例セレクト2009—2013 [I]』(有斐閣)、P.6-6、2015、査読無

9. 高見勝利「不意打ち解散で政権のリセット、高まる「憲法破壊」の跫音」、法律時報 87 巻 2 号、P. 1-3、2015、査読無
  10. 西村裕一「受刑者に選挙権を認めない公選法 11 条 1 項 2 号の合憲性」、法学教室 413 号別冊付録「判例セレクト 2014 [ I ]」、P.8-8、2015、査読無
  11. 西村裕一「「国民の代表者」と「日本国の象徴」」、法律時報 86 巻 5 号、P. 21-28、2014、査読無
  12. 徳永貴志「〔翻訳〕ジュリィ・ベネッテ「フランスの立法過程における議会多数派の役割」」、北大法学論集 65 巻 6 号、P. 369-384、2015、査読無、<http://hdl.handle.net/2115/58377>
  13. 佐藤吾郎・徳永貴志「〔翻訳〕ジュリアン・ブドン「権力分立の理論」」、北大法学論集 65 巻 6 号、P. 385-403、2015、査読無、<http://hdl.handle.net/2115/58374>
  14. 加藤一彦「大日本帝国憲法における非常大権の法概念」、現代法学 28 号、P. 95-121、2015、査読無、<http://hdl.handle.net/11150/7651>
  15. 高見勝利「「政治のヤブ」からの退却—2012 年総選挙「一票の較差」裁判最高裁判決を読む」、世界 853 号、P.128-135、2014、査読無
  16. 只野雅人「参議院議員定数不均衡訴訟（最大判平成 24・10・17）」、法学教室 401 号別冊付録「判例セレクト 2013 [ I ]」、P.4-4、2014、査読無
  17. 徳永貴志「フランス議会の復権はなされたか—2008 年憲法改正以後の法案審査—」、和光経済 46 巻 2 号、P.39-46、2014、査読無
  18. 浅野善治「立憲主義という言葉に惑わされるな—憲法改正論議を封じる論議であってはならない—」、改革者 2014 年 12 月号、P. 32-35、2014、査読無
  19. 常本照樹「海外の先住民族政策—日本との比較の視点—」、開発こうほう 615 号、P. 28-31、2014、査読無
  20. 加藤一彦「硬性憲法の脆弱性」、現代法学 26 号、P.87-110、2014、査読無、<http://hdl.handle.net/11150/6432>
  21. 新井誠「参議院議員選挙区選挙の「一票の較差」判決に関する一考察」、法学研究 87 巻 2 号、P.133-159、2014、査読無
  22. 武蔵勝宏「立法過程の変化：野田政権から安倍政権へ：北大立法過程研究会報告」、北大法学論集 64 巻 6 号、P.85-122、2014、査読無、<http://hdl.handle.net/2115/54910>
  23. 高見勝利「憲法改正」、法学教室 393 号、P. 13-21、2013、査読無
  24. 長谷部恭男・杉田敦・高見勝利・柿崎明二「〔座談会〕選挙制度と政党システムの未来」、論究ジュリスト 5 号、P.9-14、2013、査読無
  25. 只野雅人「両院制と選挙制度」、論究ジュリスト 5 号、P.66-74、2013、査読無
  26. 只野雅人「国会、参議院、民意—両院制の原点から考える」、世界 844 号、P.98-105、2013、査読無
  27. OCHIAI, Ken'ichi & TSUNEMOTO, Teruki, “On Policy Measures for the Socio-Economic Betterment of the Ainu People,” *The Hokkaido Law Review*, Vol.64, No.2, pp.301-317, 2013、査読無、<http://hdl.handle.net/2115/52997>
  28. 木下和朗「イギリスにおける憲法改革—ウェストミンスター・モデルと政治的憲法をめぐって—」、比較憲法学研究 25 号、P.57-84、2013、査読無
  29. 新井誠「2013 年参院選と両院制の今後—一定数不均衡と「ねじれ国会」の解消とを素材に」、法律時報 85 巻 10 号、P.1-3、2013、査読無
  30. 新井誠「参議院議員定数不均衡訴訟上告審判決」、ジュリスト 1453 号臨時増刊「平成 24 年度重要判例解説」、P.8-9、2013、査読無
  31. 武蔵勝宏「参議院事務局・法制局の組織とその機能」、都市問題 104 巻 5 号、P.59-65、2013、査読無
- [学会発表] (計 23 件)
1. 岡田信弘「日本国憲法：半直制かそれとも半代表制か？(La Constitution japonaise de 1946: Democratie semidirecte ou democratie semi-representative?)」、ポワチエ大学法学研究科修士課程公法研究セミナー (ポワチエ大学、ポワチエ・フランス)、2016 年 3 月 17 日
  2. 新井誠「二元的執政府 (大統領・政府) と両院制議会の関係」、慶應義塾大学フランス公法研究会 (慶應義塾大学三田キャンパス、東京都港区)、2016 年 2 月 21 日
  3. 徳永貴志「合理化された議院制の変遷」、慶應義塾大学フランス公法研究会 (慶應義塾大学三田キャンパス、東京都港区)、2015 年 11 月 29 日
  4. 常本照樹「愛努民族政策的現在」、第 8 回日台原住民族研究フォーラム (太魯閣國家公園管理站、花蓮市・台湾)、2015 年 10 月 30 日
  5. 岡田信弘「日本国憲法の下での立法過程：現状と問題点—「安全保障関連法案」の立法過程を素材に—」、台・日憲法セミナー (国立台湾大学、台北市・台湾)、2015 年 10 月 2 日
  6. 黒澤修一郎「オーストラリア議会制と「権利章典なき権利保障」の現況—比較憲法学の視点から—」、北海道公法研究会 (北海道大学大学院法学研究科、札幌市)、2015 年 6 月 26 日
  7. 岡田信弘「アジアにおける二院制研究への示唆—二院制の比較憲法論的・比較制

- 度論的研究の観点から一」、アジア法学会春季研究大会（国際基督教大学、東京都三鷹市）、2015年6月21日
8. 木下和朗「日本国憲法下の両院制の制度設計—比較研究からの示唆も踏まえて—」、北大立法過程研究会・東京国際シンポジウム—二院制の比較研究—（アルカディア市ヶ谷、東京都千代田区）、2015年3月7日
  9. 岡田信弘「二院制研究の課題—「政治学と憲法学の対話」の試み—」、第60回憲法史研究（京都大学、京都市）、2014年12月13日
  10. TSUNEMOTO, Teruki, “Meaning of ‘Being Indigenous’ ---Case of Ainu People in Japan,” Joint Workshop on Key Factors of Indigeneity (Oxford Centre for Asian Archaeology, Art and Culture, University of Oxford, Oxford, United Kingdom), 2014.12.12
  11. 只野雅人「政治改革以降の選挙・民主主義—民主主義の手續と実質」、民主主義科学者協会法律部会 2014年度学術総会（龍谷大学、京都市）、2014年11月30日
  12. 新井誠「フランスの両院制（上院）についての一考察」、慶應義塾大学フランス公法研究会（慶應義塾大学三田キャンパス、東京都港区）、2014年7月13日
  13. OKADA, Nobuhiro, “La Constitution japonaise de 1946 et la démocratie directe,” The IXth World Congress “Constitutional Challenges: Global and Local,” (University of Oslo, Oslo, Norway), 2014.6.19, <http://www.jus.uio.no/english/research/news-and-events/events/conferences/2014/wccl-cmdc/wccl/papers/ws16/w16-okada.pdf>
  14. 西村裕一「Leben und leben lassen! —平和の「科学」、自由の「哲学」」、憲法理論研究会 2014年度春季研究総会（広島大学、広島市）、2014年5月11日
  15. TSUNEMOTO, Teruki, “The Ainu and Being Indigenous: Recent Policy Developments in Japan,” Maoli Thursday (University of Hawaii System, Honolulu, USA), 2014.3.6
  16. 西村裕一「日本憲法学における国体概念に関する覚書—穂積八束と明治15年の「主権論争」を手がかりに」、北大法学会 12月例会（北海道大学、札幌市）、2013年12月12日
  17. 岡田信弘「日本国憲法における代表民主制」、第9回日中公法学シンポジウム（華東政法大学、上海市・中国）、2013年11月30日
  18. 常本照樹「アイヌ民族の社会的・経済的向上施策について」、民族発展與文化園区の経営（国立原住民族文化園区、屏東市・台湾）、2013年11月27日
  19. 西村裕一「明治15年の憲法学—シュルツェ・井上毅・穂積八束」、第四回「アジアにおける西欧立憲主義の継受と変容」研究会（延辺大学法学院、延吉市・中国）、2013年8月22日
  20. 高見勝利「憲法改正について」、経団連・憲法改正に関する懇談会（経団連会館、東京都千代田区）、2013年8月1日
  21. 新井誠「参議院議員選挙区選出選挙の「一票の較差」をめぐる最高裁大法廷違憲状態判決について」、2013年度日本選挙学会総会・研究会（京都大学、京都市）、2013年5月17日
  22. 高見勝利「いま憲法は—過去と未来のはざままで」、全国憲法研究会憲法記念講演会（上智大学四谷キャンパス、東京都千代田区）、2013年5月3日
- 〔図書〕（計37件）
1. 木下和朗「立法過程の改革及び変動と政治部門における権力の拡散」、大沢秀介・川崎政司【編】『現代統治構造の動態と展望』（尚学社）、2016刊行予定
  2. 武蔵勝宏「第8章 国会」、森本哲郎【編】『現代日本の政治』（法律文化社）、P.173-194、2016
  3. 岡田信弘「「国会改革論」雑考—政治学と憲法学の対話—」、岡田信弘・笹田栄司・長谷部恭男【編】『憲法の基底と憲法論—思想・制度・運用 高見勝利先生古稀記念』（信山社）、P.285-307、2015
  4. 西村裕一「17歳、一夏の反乱」、宍戸常寿【編著】『憲法演習ノート—憲法を楽しむ21問』（弘文堂）、P.2-21、2015
  5. 西村裕一「ファーストライブ」、宍戸常寿【編著】『憲法演習ノート—憲法を楽しむ21問』（弘文堂）、P.227-245、2015
  6. 西村裕一「総理への階段」、宍戸常寿【編著】『憲法演習ノート—憲法を楽しむ21問』（弘文堂）、P.378-394、2015
  7. 西村裕一「穂積八束を読む美濃部達吉—教育勅語と国体論—」、岡田信弘・笹田栄司・長谷部恭男【編】『憲法の基底と憲法論—思想・制度・運用 高見勝利先生古稀記念』（信山社）、P.217-236、2015
  8. 只野雅人「議会制・民主主義と憲法学」、全国憲法研究会【編】『日本国憲法の継承と発展』（三省堂）、P.214-225、2015
  9. 浅野善治「憲法改正を發議する国会の性格」、岡田信弘・笹田栄司・長谷部恭男【編】『憲法の基底と憲法論—思想・制度・運用 高見勝利先生古稀記念』（信山社）、P.391-411、2015
  10. 常本照樹「「先住民族であるとの認識」に基づく政策と憲法」、岡田信弘・笹田栄司・長谷部恭男【編】『憲法の基底と憲法論—思想・制度・運用 高見勝利先生古稀記念』（信山社）、P.527-546、2015
  11. 常本照樹・落合研一【編】『台湾の原住民政策—民族認定と博物館 北海道大学・先住民研究センター ブックレッツ

- ト 第 5 号』(北海道大学・先住民研究センター)、P.1-173、2015
12. 木下和朗「オーストラリアにおける両院制—直接公選対等型両院制に関する制度考察—」、岡田信弘・笹田栄司・長谷部恭男【編】『憲法の基底と憲法論—思想・制度・運用 高見勝利先生古稀記念』(信山社)、P. 471-497、2015
  13. 木下和朗「第 14 講 選挙権の平等と選挙制度」、中村睦男【編著】『はじめての憲法学〔第 3 版〕』(三省堂)、P. 145-160、2015
  14. 宮澤節生・武蔵勝宏・上石圭一・大塚浩『ブリッジブック法システム入門—法社会学的アプローチ〔第 3 版〕』(信山社)、P.1-352、2015
  15. 岡田信弘「州立男子「軍人養成」大学の違憲性—United States v. Virginia, 518 U.S. 515 (1996)」、憲法訴訟研究会・戸松秀典【編】『続・アメリカ憲法判例』(有斐閣)、P. 173-179、2014
  16. 岡田信弘「二院制研究の課題—まえがきに代えて」、岡田信弘【編】『二院制の比較研究—英・独・仏・伊と日本の二院制』(日本評論社)、P.1-8、2014
  17. 高見勝利「第 1 章 「より良き立法」へのプロジェクト—ハート=サックス〈The Legal Process〉再読」、井田良・松原芳博【編】『立法学のフロンティア 3 立法実践の変革』(ナカニシヤ出版)、P.21-41、2014
  18. 西村裕一「日本憲法学における国体概念の導入について—明治 15 年の憲法学序説」、高橋和之【編】『日中における西欧立憲主義の継受と変容』(岩波書店)、P. 53-73、2014
  19. 西村裕一「Leben und leben lassen! —平和の「科学」、自由の「哲学」、憲法理論研究会【編】『憲法理論叢書 22 憲法と時代』(敬文堂)、P. 39-54、2014
  20. 西村裕一「憲法—美濃部達吉と上杉慎吉」、河野有理【編】『近代日本政治思想史—荻生徂徠から網野善彦まで』(ナカニシヤ出版)、P. 229-257、2014
  21. TADANO, Masahito, “La notion de representation. L’idée individualiste et la representation territoriale,” BRUNET, Pierre, HASEGAWA, Ken & YAMAMOTO, Hajime (dir.), *Rencontre franco-japonaise autour des transferts de concepts juridiques* (Mare & Martin), pp.205-214, 2014
  22. 只野雅人「日本国憲法の政治制度と参議院」、岡田信弘【編】『二院制の比較研究—英・独・仏・伊と日本の二院制』(日本評論社)、P.163-178、2014
  23. 徳永貴志「国会—参議院不要論—」、新井誠【編著】『ディベート憲法』(信山社)、P. 189-204、2014
  24. 常本照樹「基本問題 26 違憲審査の方法」、笹田栄司【編】『Law Practice 憲法〔第 2 版〕』(商事法務)、P. 141-147、2014
  25. 加藤一彦「〔翻訳〕イェンス・ヴェルク「形態は機能に従う—ドイツの連邦参議院 (Bundesrat)」」、岡田信弘【編】『二院制の比較研究—英・独・仏・伊と日本の二院制』(日本評論社)、P.65-86、2014
  26. 加藤一彦「独特な立法参与機関としてのドイツ連邦参議院—ドイツ連邦参議院の地位と機能」、岡田信弘【編】『二院制の比較研究—英・独・仏・伊と日本の二院制』(日本評論社)、P.130-140、2014
  27. 木下和朗「〔翻訳〕メグ・ラッセル「イギリスの貴族院」」、岡田信弘【編】『二院制の比較研究—英・独・仏・伊と日本の二院制』(日本評論社)、P.87-104、2014
  28. 木下和朗「イギリス貴族院の現況—Meg Russell 両院制論に関する解説とコメント」、岡田信弘【編】『二院制の比較研究—英・独・仏・伊と日本の二院制』(日本評論社)、P.141-162、2014
  29. 木下和朗「二院制の比較と日本への示唆」、岡田信弘【編】『二院制の比較研究—英・独・仏・伊と日本の二院制』(日本評論社)、P.229-235、2014
  30. 新井誠「〔翻訳〕ソフィー・ボアロン「フランスの元老院—憲法伝統の改革」」、岡田信弘【編】『二院制の比較研究—英・独・仏・伊と日本の二院制』(日本評論社)、P.31-64、2014
  31. 新井誠「日本にとってのフランス両院制研究の意義—ボアロン論文に対するコメント」、岡田信弘【編】『二院制の比較研究—英・独・仏・伊と日本の二院制』(日本評論社)、P.116-129、2014
  32. 高見勝利「憲法改正規定(憲法 96 条)の「改正」について」、奥平康弘・愛敬浩二・青井未帆【編】『改憲の何が問題か』(岩波書店)、P.79-95、2013
  33. 西村裕一「美濃部達吉と陸軍パンフレット—または、「国家・憲法・戦争」についての学説史的考察」、長谷部恭男・安西文雄・宍戸常寿・林知更【編】『現代立憲主義の諸相—高橋和之先生古稀記念』(有斐閣)、P. 613-640、2013
  34. 西村裕一「天皇と戦争/歴史と記憶」、南野森【編】『憲法学の世界』(日本評論社)、P. 72-85、2013
  35. 武蔵勝宏「第 III 部 08 政策の種類と決定までの手続き」、新川達郎【編】『政策学入門—私たちの政策を考える』(法律文化社)、P.119-130、2013
6. 研究組織
    - (1)研究代表者
      - 岡田 信弘 (OKADA, Nobuhiro)
      - 北海道大学・大学院法学研究科・特任教授
      - 研究者番号：60125292
    - (2)研究分担者

高見 勝利 (TAKAMI, Katsutoshi)  
上智大学・大学院法学研究科・教授  
研究者番号：70108421

西村 裕一 (NISHIMURA, Yuichi)  
北海道大学・大学院法学研究科・准教授  
研究者番号：60376390

只野 雅人 (TADANO, Masahito)  
一橋大学・大学院法学研究科・教授  
研究者番号：90258278

徳永 貴志 (TOKUNAGA, Takashi)  
和光大学・経済経営学部・准教授  
研究者番号：50546992

浅野 善治 (ASANO, Yoshiharu)  
大東文化大学・大学院法務研究科・教授  
研究者番号：60384682

常本 照樹 (TSUNEMOTO, Teruki)  
北海道大学・大学院法学研究科・教授  
研究者番号：10163859

佐々木 雅寿 (SASAKI, Masatoshi)  
北海道大学・大学院法学研究科・教授  
研究者番号：90215731

加藤 一彦 (KATO, Kazuhiko)  
東京経済大学・現代法学部・教授  
研究者番号：30256292

木下 和朗 (KINOSHITA, Kazuaki)  
北海学園大学・大学院法務研究科・教授  
研究者番号：80284727

新井 誠 (ARAI, Makoto)  
広島大学・大学院法務研究科・教授  
研究者番号：20336415

黒澤 修一郎 (KUROSAWA, Shuichiro)  
島根大学・法文学部・講師  
研究者番号：30615290

齊藤 正彰 (SAITO, Masaaki)  
北星学園大学・経済学部・教授  
研究者番号：60301868

武蔵 勝宏 (MUSASHI, Katsuhiko)  
同志社大学・政策学部・教授  
研究者番号：60217114